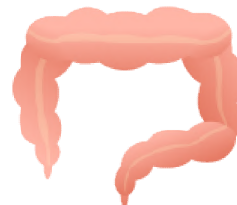


【Q&A 大腸・肛門の病気について】



中央病院 外科医が
大腸・肛門の病気について
よくいただく疑問にお答えします。



血便が出る。検診で便潜血反応陽性といわれた。

便秘がひどい。

下痢がひどい。

肛門が痛む。

大腸の検査を受けたいが、受けるのが怖い。

病気の治療法を知りたい。

血便が出る。検診で便潜血反応陽性といわれた。

便潜血反応陽性といわれた方の約70%は痔によるものといわれています。しかし、痔以外の病気が原因となる場合があります。恥ずかしがらずに、検査を受けることをお勧めします。

【便潜血反応陽性となる疾患例】

- | | | |
|------|-------|---------|
| ・痔 | ・大腸がん | ・炎症性腸疾患 |
| ・憩室炎 | ・その他 | |

便秘がひどい。

便秘の原因には、機能的なもの（腸の動きが悪い）と機械的なもの（腸が狭くなっている）の2種類があります。機械的なものが引き起こす便秘の要因としては、

- ・大腸がんによって便の排出が妨げられる
- ・肛門疾患により肛門が狭くなる
- ・術後の癒着により腸の内腔が狭い部分がある

などが挙げられます。いずれの場合も専門家の診断を必要とします。機械的なものでは、多くの場合、便秘と下痢を繰り返すようになります。

最近、便通の状態に変化があった場合は診察を受けてください。

下痢がひどい

下痢は急性胃腸炎（いわゆる「食あたり」）によって起きる場合が多いのですが、炎症性腸疾患や虚血性腸炎などでも起きることがあります。大腸がんでも下痢を生じる場合があります。

肛門が痛む

肛門が痛む原因としての肛門疾患はいろいろあります。診察を受けることに抵抗のある人がほとんどですが、勇気を出して診察にお越しください。

特に、肛門から排便ごとにできもののようなものが出てくる場合や、便秘がひどい場合、さらには出血がひどい場合などは、適切な処置が不可欠ですので、必ず診察を受けてください。

＜考えられる主な疾患＞			
1．大腸がん	2．痔核（内痔核、外痔核）	3．裂肛	4．痔漏

大腸の検査

大腸の検査については、詳しく調べるには大腸内視鏡と注腸検査（バリウム検査）が一般的なものです。当院では大腸内視鏡の検査は1年間に1,000人以上の方が受けられておられます。必要に応じて入院の設備もありますので、一度ご相談ください。

	特長	欠点
血液検査	・簡単、医師の技術を要しない	・早期発見が困難
便潜血検査	・簡単、医師の技術を要しない	・早期がんでは偽陰性になることがある（本当はがんがあるのに、検査で「がんではない」と診断されること） ・痔など、がん以外の腸疾患でも陽性になる
注腸検査 （ バリウム検査 ）	・がんの大きさや形がわかる ・造影剤とX線造影で行うため、内視鏡検査が困難な方にもできる	・便の残存の程度により、検査結果の正確さ、検査時の苦痛が大きく異なる ・下剤の準備が必要
内視鏡検査	・小さながんも確実に診断できる ・検査と同時に、ポリープや早期がんの切除もできる	・医師の技術の程度により、検査結果の正確さ、検査時の苦痛が大きく異なる ・下剤の準備が必要

大腸腫瘍に対する治療方法

(1) 手術療法

内視鏡的切除術	大腸内視鏡を使って切除します
手術（開腹）	一般的に「手術」と言われるものです
腹腔鏡下手術	おなかの内部にカメラを入れて観察しながら、3～5ヶ所より筒を通して鉗子を入れ、患部を切除します

(2) 化学療法

悪性の腫瘍に対して、抗がん剤を用いて、点滴注射や内服薬で治療します。

手術後の再発予防のための抗がん剤治療（補助化学療法）と、切除不能の進行再発大腸がんに対する抗がん剤治療があります。最新の知見をもとに、患者様に最も有効で副作用を最小限にした治療を選択しております。

(3) 放射線療法

悪性腫瘍に対して放射線を当てて治療する方法です。

以 上